



平成31年1月30日  
SDGs全国フォーラム2019

# 滋賀×SDGs

～SDGsは「未来との約束」～

滋賀県副知事 由布 和嘉子





# 2017年1月 知事がSDGsを県政に取り込むことを宣言 (都道府県では全国初)

滋賀県では、県の政策にSDGsの視点を活用するとともに、経済界、大学等多様なステークホルダーとのパートナーシップを拡大しており、SDGsの達成に向けた様々な取組や新たな連携が次々と誕生している。



# 滋賀県基本構想(案)



SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

## (1) 基本構想について

- ・みんなの力を合わせて滋賀の未来をつくっていくための将来ビジョン。県はその実現に向け、一緒に取組を進める。
- ・「経済」「社会」「環境」のバランスを図る統合的な取組であるSDGsの特徴を生かす。

## (2) 計画期間

**2019年度～2030年度(12年間)**



# 滋賀県基本構想(案)



基本理念: 変わる滋賀 続く幸せ(Evolving SHIGA)

## みんなで目指す2030年の姿

- みんなで目指す2030年の姿を「人」「経済」「社会」「環境」の4つの視点で描く

- ・自分らしい未来を描ける生き方
- ・その土台となる持続可能な滋賀



三側面の調和  
による  
持続可能な滋賀

### (1) 人 自分らしい未来を描ける生き方

- ・誰もが生涯を通じ、様々なつながりの中で自分らしくからだも心も健やかな生活を送ることができるようになり、健康寿命が延びている。
- ・より自分らしい「柔軟で多様なライフコース」を自由に選択し、生涯現役で活躍することや、何度でも再挑戦することができるようになっている。

### (2) 経済 未来を拓く新たな価値を生み出す産業

- ・第4次産業革命への対応、成長市場や成長分野を意識した産業創出・転換、事業展開等が進み、社会的課題の解決に向けた取組が広がるとともに、Society5.0時代における県の成長を支える多様な産業と雇用が創出されている。

### (3) 社会 未来を支える 多様な社会基盤

- ・ハード(道路、河川等の社会資本)とソフト(地域コミュニティ、共生社会等)の両面から、地域の特性に配慮した社会基盤の整備が進み、これまで以上に安全・安心な生活や産業活動を支えている。

### (4) 環境 未来につなげる 豊かな自然の恵み

- ・すべての人や企業などが環境に配慮した暮らしや産業活動を行うとともに、多様な主体が環境保全活動に取り組み、地域資源を活用した健全な循環のもと、琵琶湖をはじめ、すべてのいのちの基盤となる環境からの恵みがあふれている。

### (5) 目指す姿の実現に向けて生かすべき滋賀県の特徴

# 滋賀SDGs×イノベーションハブ（しがハブ）



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

・滋賀の社会的課題をビジネスモデルで解決する「滋賀SDGs×イノベーションハブ(しがハブ)」を産官金の協働で運営し、21世紀にふさわしい新たなビジネスモデルの構築に取り組む。



平成30年10月開設



## 「滋賀SDGs×イノベーションハブ」の役割

- ①アウトサイド・イン(社会基点)のビジネスアプローチの実践をサポート
- ②SDGsに通じる社会的課題の解決と企業の強みを活かしたイノベーションをサポート
- ③SDGsの普及・人材育成・情報集積・交流・連携の場づくり

検索

しがハブ

# 滋賀SDGs × 琵琶湖保全再生計画



## 「琵琶湖保全再生施策に関する計画」の重点事項

### 琵琶湖と人との共生

共感

琵琶湖の重要性や保全・再生の必要性について国民の幅広い「共感」を得る

共存

琵琶湖の保全と多様な産業活動等活力ある暮らしとの「共存」を図る

共有

琵琶湖の価値を将来に渡って「共有」する

### 琵琶湖を「守る」と「活かす」ことの好循環をさらに推進

#### 琵琶湖を『守る』取組

- 水源林整備保全、鳥獣害対策  
(水源かん養機能維持、流木・土砂対策ニホンジカ、カワウ対策等)
- 生態系、生物多様性保全  
(ヨシ群落、内湖等の保全再生等)
- 外来動植物対策  
(オオバナミズキンバイ等防除、防除手法の検討、外来魚対策等)
- 水草対策  
(刈取り除去、対策手法の検討等)
- 水産資源の回復  
(種苗放流、漁場の整備保全等)

水草刈取  
(根こそぎ除去)



ビワマス



水源林整備



ボランティアによるオオバナミズキンバイ駆除

環境に配慮した農業  
(魚道を上るコイ)



学習船「うみのこ」



ピワイチ



琵琶湖環境科学研究センター

#### 琵琶湖を『活かす』取組

- 山村の再生、しがの林業成長産業化  
(山村資源を活かした取組、森林資源の循環利用等)
- 「世界農業遺産」認定に向けた取組  
(環境に配慮した農業、生きものを育む水田づくり等独自システム)
- 環境関連産業の振興  
(水草の有効利用に係る技術支援、水環境ビジネス等)
- 体験・体感による琵琶湖とのふれあい推進  
(エコツーリズム、琵琶湖と親しむスポーツ等)
- 琵琶湖漁業の持続的発展  
(琵琶湖産魚介類の消費拡大・流通促進、新規就業者の確保等)

#### 『支える』取組

##### 調査研究

- 国立環境研究所琵琶湖分室と琵琶湖環境科学研究センターとの共同研究、連携強化
- 琵琶湖における調査研究成果のデータベース化と知見等の共有・活用
- 新たな水質管理手法の検討

##### 多様な主体による協働

- これまでのNPOや関係団体中心の協働に「事業者」「大学」も加わった仕組みの構築
- 下流域住民や学生、団体との協働(清掃活動、琵琶湖水源林の保全整備等)
- ボランティア活動の推進

##### 発信、環境学習

- ピワイチなどの推進による琵琶湖の魅力発信
- 国内外への情報発信
- 体験型の環境学習(農業体験、森林・林業体験、魚を学ぶ体験学習、学習船「うみのこ」、琵琶湖博物館等)

## 滋賀に息づくSDGsの精神と合致する考え

- ・環境にやさしい石けんを使う「石けん運動」
- ・近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」
- ・障害者福祉の父、糸賀一雄氏の「この子らを世の光に」

今後とも、多様なステークホルダーとのパートナーシップのもと、SDGsの達成に向けて取り組む。